

新保健施設等複合施設に整備する各施設の機能と連携について

1 施設整備の目的

健康づくりに向けた課題の多様化、感染症の拡大に伴う健康危機管理の重要性の高まり、向島・本所の両保健センターの老朽化等を踏まえ、「つなぐ・つながる」をコンセプトとする、保健所、子育て支援総合センター、教育センターの機能を併せ持つ、総合的な保健施設を整備する。

令和6年度中の竣工・開設を目指し、本年3月中に着工予定

2 整備スケジュール（予定）

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業者選定	基本設計・実施設計		建設工事 27か月（R4.3～R6.6）		竣工 開設

3 各施設の概要（名称はすべて仮称）

複合化対象施設

複合化対象施設名（仮称）	現施設名	現設置場所
保健所	保健計画課	区庁舎5階
	生活衛生課	
	保健予防課	区庁舎3階
	向島保健センター	東向島5-16-2
	本所保健センター	東駒形1-6-4
（乳幼児健診エリアの歯科診察室にひかり歯科相談室の機能を付加）	ひかり歯科相談室	向島3-36-7 すみだ福祉保健センター内
薬剤備蓄室 （災害時に災害薬事センターとして機能）	【新設】	-----
子育て支援総合センター （都区共同サテライトオフィス設置を含む。都の児童相談所職員と区職員とが連携して児童虐待に対応（未然防止を含む。）する拠点）	子育て支援総合センター	京島1-35-9-103
教育センター	すみだ教育研究所	区庁舎11階
	特別支援等就学相談（学務課）	
	教育相談室	東向島2-38-7 すみだ生涯学習センター内
	教科書展示	京島1-36-5 ひきふね図書館内
	すみだスクールサポートセンター	東向島6-8-1 第三寺島小学校内
	サポート学級	すみだスクールサポートセンター内
	ステップ学級	吾妻橋2-18-12
研修室	東駒形4-18-4 横川小学校内	
地域内輸送拠点（ターミナル型備蓄倉庫）	【新設】	-----

施設の概要

保健所
<p>概要 各種疾病の予防、衛生教育、医療費助成等のサービス業務のほか、監視、指導、取締り、許認可等の事務を行っている。 墨田区保健所として区役所内（保健計画課、生活衛生課、保健予防課）、向島保健センター及び本所保健センターを設置しているが、これらを新施設で統合する。</p> <p>主な実施事業等 健康づくり推進、生活習慣病予防、がん対策、母子保健、精神保健福祉、歯科保健、感染症、結核予防、環境・食品衛生、動物愛護 など</p>
子育て支援総合センター
<p>概要 在宅での子育てを支援する拠点施設として、子育て支援サービスの提供・調整、総合相談等の総合的な子育て支援事業を行っている。 区民が安心して子育てができる環境の充実を図るため、母子保健、福祉、教育等関係機関との連携を強化することにより、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を一貫して行い、在宅子育て支援や都区共同サテライトオフィスを活用した児童相談体制の充実を図る。</p> <p>主な実施事業等 子育て総合相談、児童虐待に関する相談・虐待防止対応、緊急一時保育等受付、児童養育家庭ホームヘルプサービス、いっしょに保育、訪問型保育支援事業、ファミリーサポートセンター事業、「ひろば」事業、子どもショートステイ事業 など</p>
教育センター
<p>概要 児童・生徒の不登校や問題行動・子育てに関する問題など、多様化する健全育成上の課題に対して、相談・支援の機能を一元化するとともに、早期のきめ細やかな対応を通じて、総合的に課題解決を図ることをねらいとした施設である。また、教員の研修や研究のマネジメントなど、教員の資質能力の向上に関する業務も行い、学力向上等を目指す。</p> <p>主な実施事業等 すみだスクールサポートセンター、サポート学級、ステップ学級、教育相談室、教職員研修、特別支援等就学相談、研究図書・教科書展示 など</p>
地域内輸送拠点（ターミナル型備蓄倉庫）
<p>概要 災害時の支援物資荷捌き・保管スペースとして、トラック駐車スペースを有するターミナル型（物流拠点型）の防災備蓄倉庫</p> <p>主な実施事業等 【ターミナル機能】災害時、国・東京都や協定を結んでいる企業などから集まって来る救援物資を一時保管・荷捌き・各避難所へ分配</p>

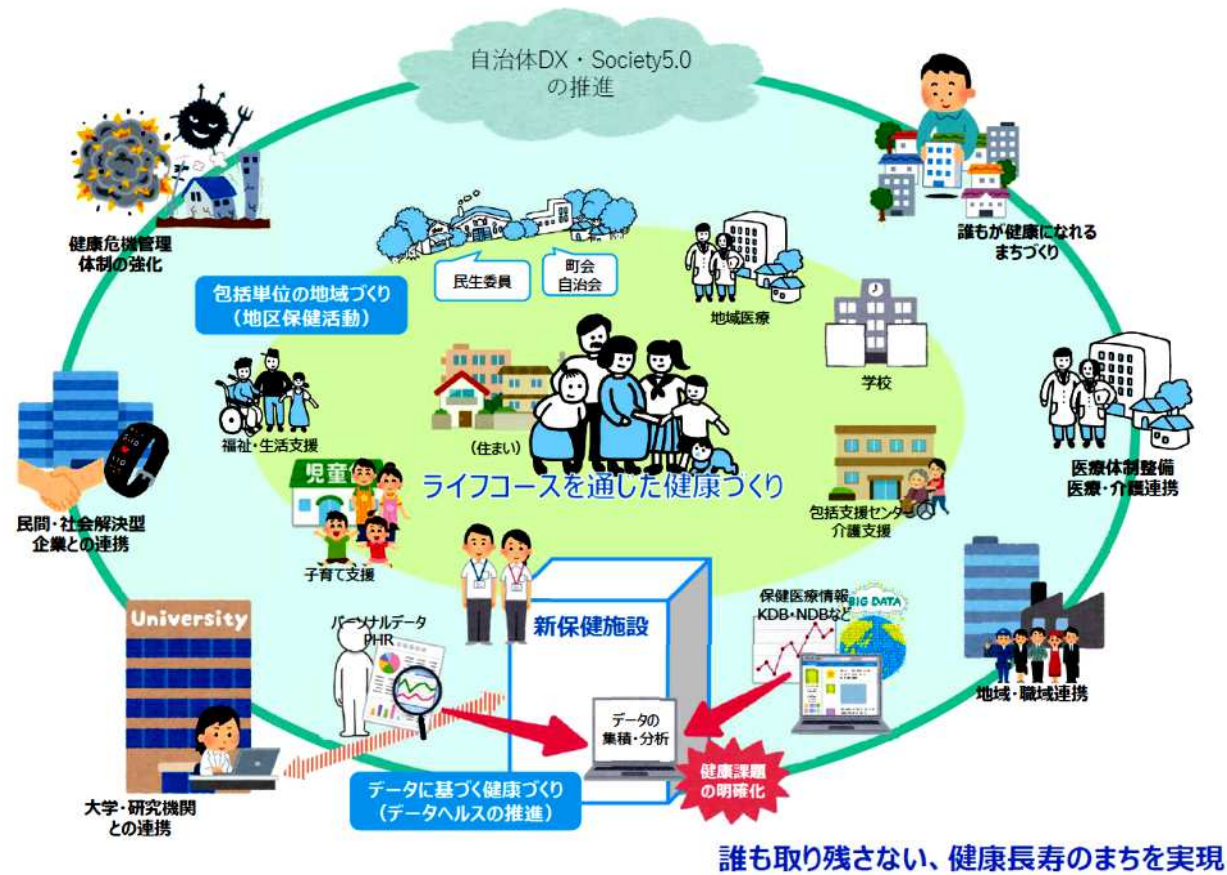
4 新施設が区民の健康づくりで果たす役割

すみだ健康づくり総合計画では、その基本目標として、ライフコースを通じた健康づくりを推進していくこととしている。新施設は乳幼児期から高齢期に至るまで、あらゆる世代の健康づくりの拠点となる。保育施設や包括支援センター、地域医療等と強くつながり、身近な地域で多様な担い手による全世代を対象とした包括的な健康づくりを推進する。

また、新施設においては、データに基づく健康づくり（データヘルス）も推進する。パーソナル・ヘルス・レコード（PHR）を集積・分析し、保健医療情報のビッグデータも活用し、エビデンスに基づく形で健康課題を明確にし、区民の健康づくりを支援する。

今後は、大学や民間企業、地域・職域とも連携し、またICTも活用し（オンライン相談・申請、非接触型対応の促進等自治体DXの推進）誰も取り残さない、健康長寿のまちを実現する。

新施設における健康づくりのイメージ



5 新施設における各機能の連携

新施設では、集約・複合化で連携を強化し、区民サービスの向上を目的とした、「新保健所を核とした機能連携」を目指していることから、区内全域を対象としたサービスを提供する、いわゆる「基幹」となり得る施設について、複合化することとする。保健所を核として子育て、教育が連携し、多問題を抱えた方などの場合についても迅速に協議するなど、各機能の有機的な連携を図る。

併せて、新施設は、既に区内8か所に整備されている高齢者支援総合センターとも医療介護連携を図っていく。

【母子分野の現状のイメージ】



今後の連携イメージ

【『墨田区版』ネウボラ】

